

和白干潟の環境教育プログラム



和白干潟

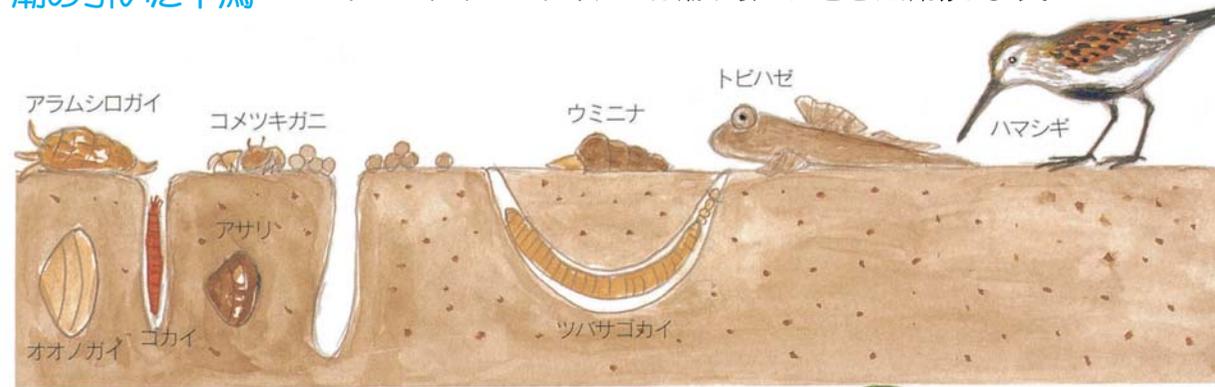
博多湾の東奥部にある和白海域（約300ha）と和白干潟（約80ha）は、東アジアの水鳥の渡りのルート、シベリアから日本列島を通り東南アジアやオーストラリアまで渡るルートと、中国大陸から朝鮮半島を通り九州北部を通るルートの交差点にあたる、国際的に重要な湿地です。水鳥たちの中継地、越冬地として有名です。水鳥たちがたくさんやってくるのは、餌となる貝、カニ、ゴカイなど底生動物が豊富であり、広くて安全な場所があるからです。

和白干潟にすむたくさんの小さな生きものたちは、干潟に穴を掘ってすんでおり干潟に酸素を供給します。また微生物、底生動物、魚、鳥と続く（人間も含まれる）食物連鎖により、海水を浄化しています。この生態系を子どもたちに知らせ、体験を通して、干潟の生きものたちは私たちと同じ地球の仲間だと伝えたいと思います。

日本では、戦後4割以上の干潟が埋め立てなどで失われてしまいました。和白干潟は福岡市という大都市に残る貴重な自然環境です。2009年には、自然海岸のある干潟として「にほんの里100選」に選ばれました。しかし、福岡市の人口増加による家庭排水の流入増と、博多湾のあいつぐ埋め立てで浅海域を失い浄化能力を落とした博多湾は、弱ってきています。開発優先だった社会は今、自然との共存を考える時代に入りました。世界中で干潟などの湿地を保全する「ラムサール条約」ができ、守る努力がなされています。自然や生きものたちと共存できる社会のあり方やまちづくりを、市民の方々や子どもたちにも考えてほしいと願っています。自然を守ることは私たちの命を守るからだからです。

和白干潟では1990年頃から、小・中学校や公民館のサークルなどの自然観察会が多数行われています。学校などから依頼を受けて観察会のお世話をしてきましたが、和白干潟の自然の特殊性を理解してより良く観察会が行えるよう、案内を出しています。

潮の引いた干潟…… ウミニナやコメツキガニは潮が引いたときに活動します。



潮の満ちた干潟…… アサリやゴカイは潮が満ちたときに活動します。



※福岡県発行の「干潟の自然観察」を参考にしました。

環境教育は、現地で野生の生きものたちを実際に見ることが大切です。生きものたちの姿にふれて、生命の大切な営みを考えましょう。和白干潟を見ることで、私たちの身近な自然の大切さと同時に、地球規模の自然のつながりを考えます。

★和白干潟の自然観察会は、2時間位が適当です。海には潮の満ち引きがあり、潮時により様子が違います。また季節により見られるものも違います。時期や時間をよく調べて検討してください。

★観察会のお世話は、和白干潟を守る会や日本野鳥の会の人たちのボランティアで支えられています。実施日時を前もって相談してください。

★和白干潟周辺は福岡市の公園にはなっていません。トイレや手洗いの施設がありませんので、そのための配慮が必要です。

★和白干潟沿岸には、川や博多湾のゴミがたくさん流れ着きます。ごみを捨てたり、犬のフンをそのままに放置している心ない人もいます。フンは砂をかぶせて埋めるように、落ちているゴミは拾って持ち帰りましょう。



きりえ／ハマナデシコ咲く和白干潟